

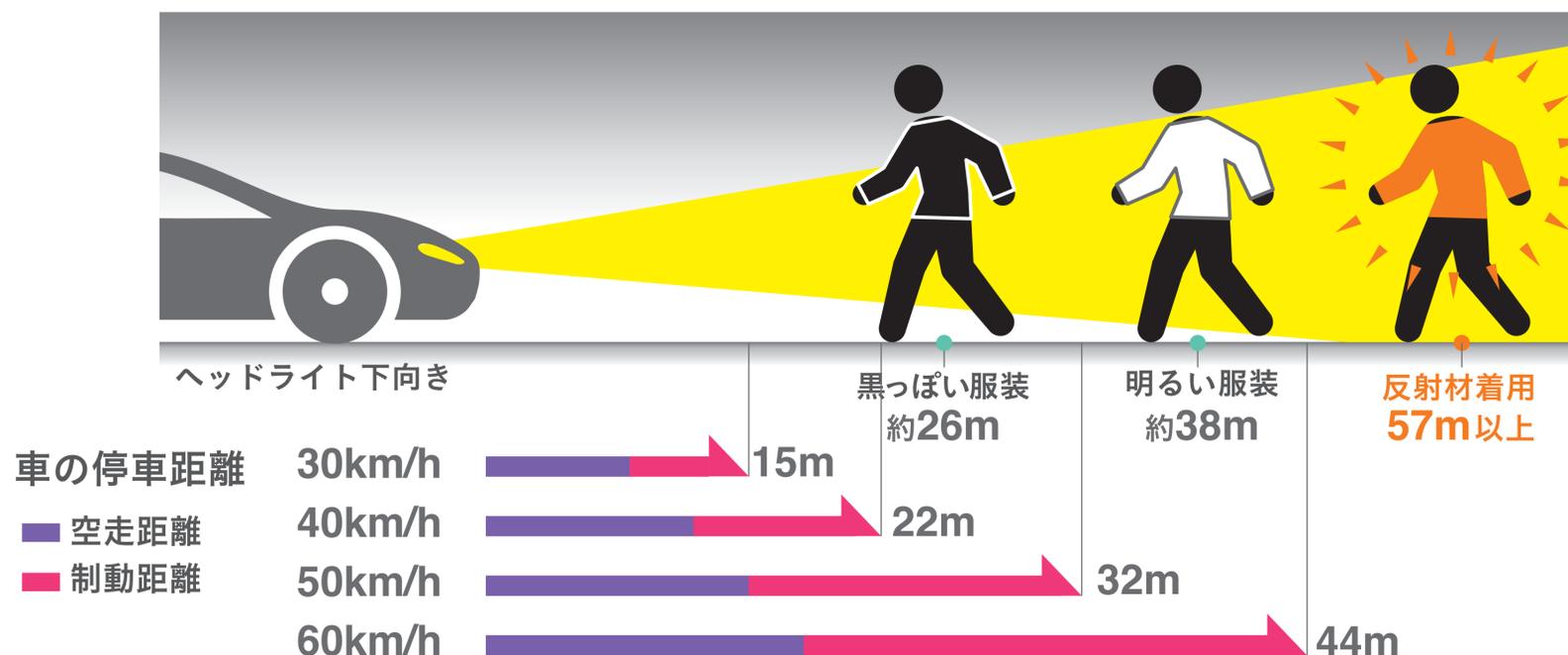


夜間の視認性と反射材の有効性

夜間、ドライバーから歩行者が見える距離は衣服のカラーによって異なります。車のヘッドライトを下向きにしている時、黒っぽいカラーで約26m、明るいカラーで約38mとされています。

ドライバーが歩行者を発見し車が止まれるまでの距離は、乾いた路面を時速60kmで走行していて約44mですので、明るい服装でも交通事故に遭う危険性があります。反射材を身につけている場合は約57m以上先からの視認性がありますので、反射材を身につけていない時に比べ、安全性が格段に高くなり「安心・安全」です。

● 夜間の車から歩行者が見える距離

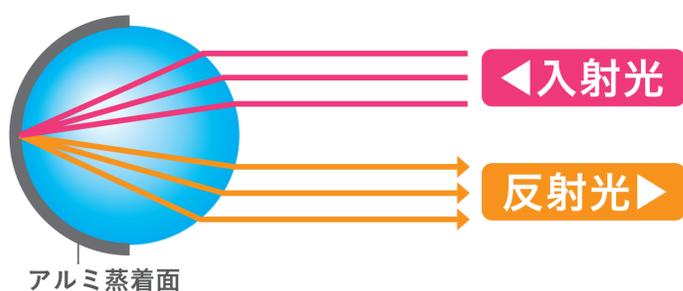


反射材の原理

反射材は「再帰反射」という光学的な特殊技術で開発された反射機能を備えた素材です。車のライト（光源）から出た光は反射材に当たり、光は来た方向の（光源）に向かって帰っていきます。ドライバーは夜間、反射材を身に付けている歩行者を遠くから早期に視認することで、安全運転が行えます。歩行者にとってもドライバーにとっても夜間には必要不可欠なアイテムです。

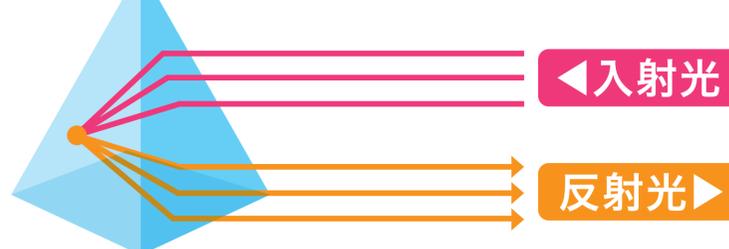
反射材は大きく分けて[ガラスビーズ型]と[プリズムレンズ型]の2種類があります。

● ガラスビーズ型



入射光は、ガラスビーズの表面を通過するときに屈折し、裏側のアルミ蒸着面で反射して、再び表面を通過する時は屈折して光源に戻ります。

▲ プリズムレンズ型



表面の入射光は、プリズムの裏側の面で次々に反射して、表面から光源に戻ります。

